

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領(1998年9月)に準拠して作成

生薬製剤 劇薬

日本薬局方 ブシ末 ブシ末(調剤用)「ツムラ」

TSUMURA Processed Bushi Powder for Ethical Dispensing

3023

剤 形	粉 末
規 格 ・ 含 量	本品は、トリカブトの塊根を高圧蒸気処理により加工した日本薬局方ブシ末である。 本品は、総アルカロイド〔ベンゾイルアコニン (C ₃₂ H ₄₅ NO ₁₀ : 603.70) として) 0.4~1.2%を含む。
一 般 名	和 名：ブシ末 洋 名：Powdered Processed Aconite Root
製造販売承認年月日 薬価基準収載・発売年月日	製造販売承認年月日：平成18年10月11日 薬価基準収載年月日：平成19年 7月 6日 発 売 年 月 日：平成19年 7月12日
開発・製造販売(輸入)・ 提携・販売会社名	製造販売 株式会社ツムラ
医薬情報担当者の 連 絡 先	
問 い 合 わ せ 窓 口	株式会社ツムラ お客様相談窓口 TEL 0120-329-970 FAX 03-5574-6610 医療関係者向けホームページ http://www.tsumura.co.jp/password/top.htm

本IFは2010年1月改訂の添付文書の記載に基づき改訂した。
最新の添付文書情報は、PMDAホームページ「医薬品に関する情報」
<http://www.pmda.go.jp/>にてご確認ください。

IF利用の手引きの概要 - 日本病院薬剤師会 -

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者（以下、MRと略す）等にインタビューし、当該医薬品の評価を行うのに必要な医薬品情報源として使われていたインタビューフォームを、昭和63年日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第2小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、IFと略す）として位置付けを明確化し、その記載様式を策定した。そして、平成10年日病薬学術第3小委員会によって新たな位置付けとIF記載要領が策定された。

2. IFとは

IFは「医療用医薬品添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な医薬品の適正使用や評価のための情報あるいは薬剤情報提供の裏付けとなる情報等が集約された総合的な医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

しかし、薬事法の規制や製薬企業の機密等に関わる情報、製薬企業の製剤意図に反した情報及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等はIFの記載事項とはならない。

3. IFの様式・作成・発行

規格はA4判、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体で記載し、印刷は一色刷りとする。表紙の記載項目は統一し、原則として製剤の投与経路別に作成する。IFは日病薬が策定した「IF記載要領」に従って記載するが、本IF記載要領は、平成11年1月以降に承認された新医薬品から適用となり、既発売品については「IF記載要領」による作成・提供が強制されるものではない。また、再審査及び再評価（臨床試験実施による）がなされた時点ならびに適応症の拡大等がなされ、記載内容が大きく異なる場合にはIFが改訂・発行される。

4. IF利用にあたって

IF策定の原点を踏まえ、MRへのインタビュー、自己調査のデータを加えてIFの内容を充実させ、IFの利用性を高めておく必要がある。

MRへのインタビューで調査・補足する項目として、開発の経緯、製剤的特徴、薬理作用、臨床成績、非臨床試験等の項目が挙げられる。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、当該医薬品の製薬企業の協力のもと、医療用医薬品添付文書、お知らせ文書、緊急安全性情報、Drug Safety Update（医薬品安全対策情報）等により薬剤師等自らが加筆、整備する。そのための参考として、表紙の下段にIF作成の基となった添付文書の作成又は改訂年月を記載している。なお適正使用や安全確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等には承認外の用法・用量、効能・効果が記載されている場合があり、その取扱いには慎重を要する。

目 次

I . 概要に関する項目	
1 . 開発の経緯.....	1
2 . 製品の特徴及び有用性.....	1
II . 名称に関する項目	
1 . 販売名	
(1 和名.....)	2
(2 洋名.....)	2
(3 名称の由来.....)	2
2 . 一般名	
(1 和名(命名法).....)	2
(2 洋名(命名法).....)	2
3 . 構造式又は示性式.....	2
4 . 分子式及び分子量.....	3
5 . 化学名(命名法).....	3
6 . 慣用名、別名、略号、記号番号.....	3
7 . CAS登録番号.....	3
III . 有効成分に関する項目	
1 . 有効成分の規制区分.....	4
2 . 物理化学的性質	
(1 外観・性状.....)	4
(2 溶解性.....)	4
(3 吸湿性.....)	4
(4 融点(分解点)、沸点、凝固点.....)	4
(5 酸塩基解離定数.....)	4
(6 分配係数.....)	4
(7 その他の主な示性値.....)	4
3 . 有効成分の各種条件下における安定性.....	4
4 . 有効成分の確認試験法.....	4
5 . 有効成分の定量法.....	4
IV . 製剤に関する項目	
1 . 剤形	
(1 剤形の区別及び性状.....)	5
(2 製剤の物性.....)	5
(3 識別コード.....)	5
2 . 製剤の組成	
(1 含量規格.....)	5
(2 添加物.....)	5
3 . 製剤の各種条件下における安定性.....	5
4 . 他剤との配合変化(物理化学的变化).....	7

5 . 混入する可能性のある夾雑物.....	7
6 . 製剤の確認試験法.....	7
7 . 製剤の定量法.....	7
8 . 容器の材質.....	7
9 . その他.....	7
V . 治療に関する項目	
1 . 効能又は効果.....	8
2 . 用法及び用量.....	8
3 . 臨床成績	
(1) 臨床効果.....	8
(2) 臨床薬理試験：忍容性試験.....	8
(3) 探索的試験：用量反応探索試験.....	8
(4) 検証的試験	
1 無作為化平行用量反応試験.....	8
2 比較試験.....	8
3 安全性試験.....	8
4 患者・病態別試験.....	8
(5) 治療的使用	
1 使用成績調査・特定使用成績調査・製造販売後臨床試験.....	8
2 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要.....	8
VI . 薬効薬理に関する項目	
1 . 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群.....	9
2 . 薬理作用	
(1) 作用部位・作用機序.....	9
(2) 薬効を裏付ける試験成績.....	9
VII . 薬物動態に関する項目	
1 . 血中濃度の推移・測定法	
(1) 治療上有効な血中濃度.....	10
(2) 最高血中濃度到達時間.....	10
(3) 通常用量での血中濃度.....	10
(4) 中毒症状を発現する血中濃度.....	10
2 . 薬物速度論的パラメータ	
(1) 吸収速度定数.....	10
(2) バイオアベイラビリティ.....	10
(3) 消失速度定数.....	10
(4) カリアランス.....	10
(5) 分布容積.....	10
(6) 血漿蛋白結合率.....	10

3 . 吸収.....	10
4 . 分布	
(1) 血液 - 脳関門通過性.....	10
(2) 胎児への移行性.....	10
(3) 乳汁中への移行性.....	10
(4) 髄液への移行性.....	10
(5) その他の組織への移行性.....	10
5 . 代謝	
(1) 代謝部位及び代謝経路.....	11
(2) 代謝に關与する酵素(CYP450等)の分子種.....	11
(3) 初回通過効果の有無及びその割合.....	11
(4) 代謝物の活性の有無及び比率.....	11
(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ.....	11
6 . 排泄	
(1) 排泄部位.....	11
(2) 排泄率.....	11
(3) 排泄速度.....	11
7 . 透析等による除去率	
(1) 腹膜透析.....	11
(2) 血液透析.....	11
(3) 直接血液灌流.....	11

VIII . 安全性 (使用上の注意等) に関する項目

1 . 警告内容とその理由.....	12
2 . 禁忌内容とその理由.....	12
3 . 効能・効果に關連する使用上の注意とその理由.....	12
4 . 用法・用量に關連する使用上の注意とその理由.....	12
5 . 慎重投与内容とその理由.....	12
6 . 重要な基本的注意とその理由及び処置方法.....	12
7 . 相互作用	
(1) 併用禁忌とその理由.....	12
(2) 併用注意とその理由.....	12
8 . 副作用	
(1) 副作用の概要.....	13
1 重大な副作用と初期症状.....	13
2 その他の副作用.....	13
(2) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧.....	13
(3) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度.....	13
(4) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法.....	13
9 . 高齢者への投与.....	13
10 . 妊婦、産婦、授乳婦等への投与.....	13
11 . 小児等への投与.....	13

12．臨床検査結果に及ぼす影響.....	14
13．過量投与.....	14
14．適用上及び薬剤交付時の注意(患者等に留意すべき必須事項等).....	14
15．その他の注意.....	14
16．その他.....	14
IX．非臨床試験に関する項目	
1．一般薬理.....	15
2．毒性	
(1)単回投与毒性試験.....	15
(2)反復投与毒性試験.....	15
(3)生殖発生毒性試験.....	15
(4)その他の特殊毒性.....	15
X．取扱い上の注意等に関する項目	
1．有効期間又は使用期限.....	16
2．貯法・保存条件.....	16
3．薬剤取扱い上の注意点.....	16
4．承認条件.....	16
5．包装.....	16
6．同一成分・同効薬.....	16
7．国際誕生年月日.....	16
8．製造・輸入承認年月日及び承認番号.....	16
9．薬価基準収載年月日.....	17
10．効能・効果追加、用法・用量変更追加等の年月日及びその内容.....	17
11．再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容.....	17
12．再審査期間.....	17
13．長期投与の可否.....	17
14．厚生労働省薬価基準収載医薬品コード.....	17
15．保険給付上の注意.....	17
XI．文献	
1．引用文献.....	18
2．その他の参考文献.....	18
XII．参考資料	
主な外国での発売状況.....	18
XIII．備考	
その他の関連資料.....	18

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

本品は、漢方処方調剤用として、ツムラ独自の製法によりトリカブトの塊根をオートクレーブで湿熱処理して減毒化し、粉末として開発された生薬末である。

2. 製品の特徴及び有用性

本品は、鎮痛作用の強いアコニチン型ジエステルアルカロイド含量を弊社従来品に比べ高めた日本薬局方ブシ末である。

II. 名称に関する項目

1. 販売名

(1)和名

ブシ末（調剤用）「ツムラ」

(2)洋名

TSUMURA Processed Bushi Powder for Ethical Dispensing

(3)名称の由来

平成12年9月19日付厚生省（現厚生労働省）医薬発第935号「医療事故を防止するための医薬品の表示事項及び販売名の取り扱いについて」に基づき日本薬局方の一般名である“ブシ末”に（調剤用）ならびに「ツムラ」をつけて製品名とした。

なお、販売名に“修治”が入っていないのは、日本薬局方では修治したブシ末の一般名を“ブシ末”としているためである。

2. 一般名

(1)和名（命名法）

ブシ末

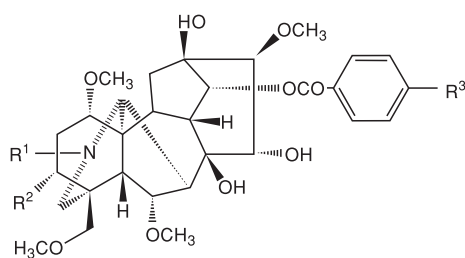
(2)洋名（命名法）

Powdered Processed Aconite Root

3. 構造式又は示性式

[参考]

本品にはアコニチン型ジエステルアルカロイド（メサコニチン等）が含有される。その代表的な構造式を以下に示す。



	R ¹	R ²	R ³
14-anisoylaconine	C ₂ H ₅	OH	OCH ₃
benzoylmesaconine	CH ₃	OH	H
benzoylhypaconine	CH ₃	H	H

4 . 分子式及び分子量

該当しない

5 . 化学名 (命名法)

該当しない

6 . 慣用名、別名、略号、記号番号

記号番号 TJ - 3023

7 . CAS登録番号

該当しない

Ⅲ．有効成分に関する項目

1．有効成分の規制区分

該当しない

2．物理化学的性質

(1) 外観・性状

該当しない

(2) 溶解性

該当しない

(3) 吸湿性

該当しない

(4) 融点(分解点)、沸点、凝固点

該当しない

(5) 酸塩基解離定数

該当しない

(6) 分配係数

該当しない

(7) その他の主な示性値

該当しない

3．有効成分の各種条件下における安定性

該当しない

4．有効成分の確認試験法

該当しない

5．有効成分の定量法

該当しない

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

(1) 剤形の区別及び性状

剤形	性状	
	色	におい
粉末	淡褐色	特異なにおい

(2) 製剤の物性

1) 粒度分布

日本薬局方、通則19の「医薬品の切度及び粉末度」に示される以下の粒度を有する。

ふるい番号 (ふるいの呼び寸法)	18号 (850 μm)	50号 (300 μm)	100号 (150 μm)	200号 (75 μm)
上のふるいを通ったものの名称	粗末	中末	細末	微末
上のふるいを通ったものの割合(%)	100	100	約36	約1

2) かさ密度、タップ密度、安息角、分散度

かさ密度 (g/mL)	タップ密度 (g/mL)	安息角 (度)	分散度 (%)
約0.55	約0.90	約48	約30

(3) 識別コード

該当しない

2. 製剤の組成

(1) 含量規格

本品は、総アルカロイド〔ベンゾイルアコニン ($C_{32}H_{45}NO_{10}$: 603.70) として〕0.4 ~ 1.2% を含む。

(2) 添加物

添加物は使用していない。

3. 製剤の各種条件下における安定性

(1) 製剤の性状・成分等の変化

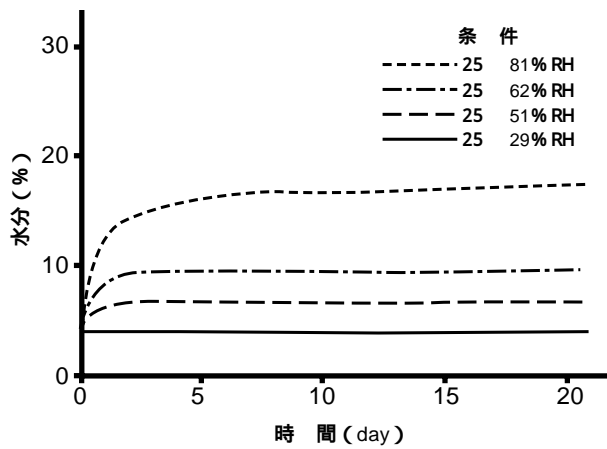
保存形態	保存条件	結果*
ポリエチレンボトル	加速試験 (40℃、75%RH) 6ヵ月	変化なし

* 項目：性状、確認試験、乾燥減量、純度試験アコニン型ジエステルアルカロイド、定量法 (総アルカロイド)

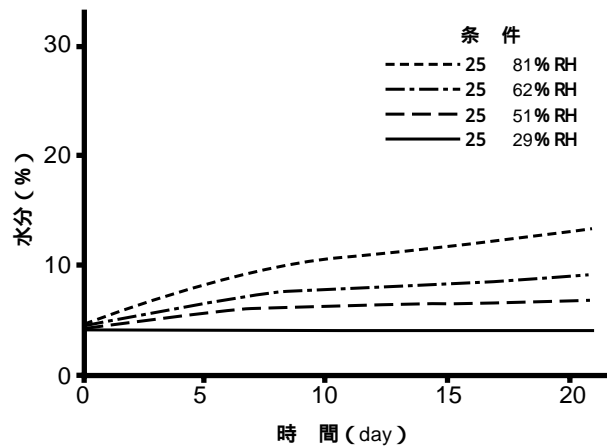
(2 製剤の保存形態別外観及び水分含量変化

保存形態	保存条件	結 果
未 包 装	25 81%RH 6時間	ケーキング
	25 62%RH 1日	ケーキング
	25 51%RH 7日	ケーキング
	25 29%RH 21日	変化なし
グラシン紙	25 81%RH 7日	ケーキング
	25 62%RH 10日	ケーキング
	25 51%RH 21日	ケーキング
	25 29%RH 21日	変化なし

1) 未包装状態における吸湿曲線



2) グラシン紙包装状態における吸湿曲線



4. 他剤との配合変化（物理化学的变化）

該当資料なし

5. 混入する可能性のある夾雑物

副生成物、分解物の特定はできない。

6. 製剤の確認試験法

日本薬局方ブシ末に準拠する。

7. 製剤の定量法

日本薬局方ブシ末に準拠する。

8. 容器の材質

ボトル容器：ポリエチレン・ナイロン

9. その他

(1)微生物限度

微生物限度は日本薬局方、参考情報の「非無菌医薬品の微生物学的品質特性」に記載の「生薬及び生薬を配合した製剤の微生物学的品質に対する許容基準値」中の「カテゴリー2」に準ずる。

項目	試験方法	限度値
好気性細菌	日本薬局方、生薬の微生物限度試験法に準ずる。	10 ⁵ CFU/g
真菌（カビ、酵母）		10 ³ CFU/g
腸内細菌とその他のグラム陰性菌		10 ³ CFU/g
大腸菌		認めない
サルモネラ		認めない

単位：CFU /g CFU：Colony Forming Unit

(2)無機元素含量

以下に、製剤中の代表的無機元素の実測例を示す。

測定は、誘導結合プラズマ質量分析法で実施した。

元素	Na	K	Ca	Mg	P	Fe	Al	Zn	I
一日換算量 (mg)	0.02	8.2	2.8	1.4	4.3	0.1	0.1	0.02	0.001 未満
当量 (mEq)	0.001	0.21	0.14	0.11	0.41	0.002	0.01	0.001	0.00001 未満

V．治療に関する項目

1．効能又は効果

漢方処方調剤に用いる。

2．用法及び用量

漢方処方調剤に用いる。

3．臨床成績

(1)臨床効果

該当資料なし

(2)臨床薬理試験：忍容性試験

該当資料なし

(3)探索的試験：用量反応探索試験

該当資料なし

(4)検証的試験

1 無作為化平行用量反応試験

該当資料なし

2 比較試験

該当資料なし

3 安全性試験

該当資料なし

4 患者・病態別試験

該当資料なし

(5)治療的使用

1 使用成績調査・特定使用成績調査・製造販売後臨床試験

該当資料なし

2 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当資料なし

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

[参考]

「II. 3. 構造式又は示性式」を参照すること。

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序

該当資料なし

(2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

VII．薬物動態に関する項目

1．血中濃度の推移・測定法

- (1) 治療上有効な血中濃度
該当資料なし
- (2) 最高血中濃度到達時間
該当資料なし
- (3) 通常用量での血中濃度
該当資料なし
- (4) 中毒症状を発現する血中濃度
該当資料なし

2．薬物速度論的パラメータ

- (1) 吸収速度定数
該当資料なし
- (2) バイオアベイラビリティ
該当資料なし
- (3) 消失速度定数
該当資料なし
- (4) クリアランス
該当資料なし
- (5) 分布容積
該当資料なし
- (6) 血漿蛋白結合率
該当資料なし

3．吸収

該当資料なし

4．分布

- (1) 血液-脳関門通過性
該当資料なし
- (2) 胎児への移行性
該当資料なし
- (3) 乳汁中への移行性
該当資料なし
- (4) 髄液への移行性
該当資料なし
- (5) その他の組織への移行性
該当資料なし

5．代謝

(1)代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

(2)代謝に關与する酵素（CYP450等）の分子種

該当資料なし

(3)初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

(4)代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

(5)活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

6．排泄

(1)排泄部位

該当資料なし

(2)排泄率

該当資料なし

(3)排泄速度

該当資料なし

7．透析等による除去率

(1)腹膜透析

該当資料なし

(2)血液透析

該当資料なし

(3)直接血液灌流

該当資料なし

VIII．安全性（使用上の注意等）に関する項目

1．警告内容とその理由

特になし

2．禁忌内容とその理由

特になし

3．効能・効果に関連する使用上の注意とその理由

特になし

4．用法・用量に関連する使用上の注意とその理由

特になし

5．慎重投与内容とその理由

慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

（1）体力の充実している患者〔副作用があらわれやすくなり、その症状が増強されるおそれがある。〕

（2）暑がり、のぼせが強く、赤ら顔の患者〔心悸亢進、のぼせ、舌のしびれ、悪心等があらわれるおそれがある。〕

[理由]

（1）本剤は、体力の充実している患者に投与すると副作用があらわれやすくなり、その症状が増強されるおそれがあり^{1)~3)}、記載した。

（2）本剤は、暑がり、のぼせが強く、赤ら顔の患者に投与すると心悸亢進、のぼせ、舌のしびれ、悪心等があらわれるおそれがあり³⁾、記載した。

6．重要な基本的注意とその理由及び処置方法¹⁾²⁾⁴⁾

ブシを含む製剤との併用には注意すること。

使用にあたっては、少量から用い、症状をみながら段階的に増量することが望ましい。

7．相互作用

（1）併用禁忌とその理由

特になし

（2）併用注意とその理由

特になし

8 . 副作用

(1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

1) 重大な副作用と初期症状

特になし

2) その他の副作用

	頻度不明
そ の 他	心悸亢進、のぼせ、舌のしびれ、悪心等

[理由]

本剤により、心悸亢進、のぼせ、舌のしびれ、悪心等があらわれるおそれがあり²⁾⁻⁷⁾、上記の副作用を記載した。

[処置方法]

原則的には投与中止により改善するが、病態に応じて適切な処置を行うこと。

[参考]

不整脈、特に心室性期外収縮や心室頻拍に対する処置としてはリドカイン等を（黒木由美子・他、月刊薬事、1994、36(8)、p.1839、また徐脈や伝導障害に対してはアトロピン等の投与を行う（内藤裕史、中外医薬、1991、44(9)、p.439、山口 徹、北原光夫 総編集、今日の治療指針、医学書院、2005、p.253, p.256,)。

(2) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(3) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(4) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

特になし

9 . 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

[理由]

平成4年4月1日付薬安第30号「高齢者への投与に関する医療用医薬品の使用上の注意の記載について」に基づき上記の使用上の注意を記載した。

10 . 妊婦、産婦、授乳婦等への投与³⁾⁻¹⁶⁾

妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないことが望ましい。[使用経験が少ない]

11 . 小児等への投与⁵⁾

小児等に対する安全性は確立していないので、慎重に投与すること。[使用経験が少ない]

12 . 臨床検査結果に及ぼす影響

該当資料なし

13 . 過量投与

該当資料なし

14 . 適用上及び薬剤交付時の注意（患者等に留意すべき必須事項等）

《適用上の注意》

該当資料なし

《薬剤交付時の注意》

本剤はグラシン紙等防湿効果のない分包材質で調剤した場合は、吸湿のおそれがある。吸湿による品質の劣化等を防止するため、交付時に取り扱いについて十分注意する旨患者に伝えること。

[参考]

相対湿度50%以上の環境下では、吸湿によりケーキングを起こすことがある。密閉性の良い容器に入れ、しっかりと蓋をして、直射日光をさけ、なるべく湿気の少ない涼しいところに保管することが望ましい。

15 . その他の注意

特になし

16 . その他

特になし

IX. 非臨床試験に関する項目

1. 一般薬理

(1) 安全性薬理試験

心血管系に対する作用¹⁷⁾

覚醒、非拘束の雄性カニクイザルに200、400、800 mg/kgを単回経口投与し、テレメトリ法で検討した結果、800mg/kg投与群で心室性期外収縮、血圧の低下及び心拍数の減少が認められた。従って、無作用量は400mg/kgであると判断された。

2. 毒性

(1) 単回投与毒性試験¹⁸⁾

動物種	投与経路	性別	概略の致死量(g/kg)
SD系ラット	経口	雄	10
		雌	2.5

(2) 反復投与毒性試験¹⁹⁾

SD系ラット雌雄に250、800、2500mg/kg/日を1ヵ月間経口投与した結果、毒性学的に意味のある変化は認められなかった。

(3) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

(4) その他の特殊毒性

該当資料なし

X. 取扱い上の注意等に関する項目

1. 有効期間又は使用期限

使用期限：容器に表示（3年）

設定根拠：加速試験による安定性試験結果に基づく（自主設定）

2. 貯法・保存条件

薬の品質を保つため、できるだけ湿気をさけ、直射日光のあたらない涼しい所に保管すること。

3. 薬剤取扱い上の注意点

吸湿性が高いため、開封後は特に湿気をさけ、密閉するなど取扱いに注意すること。

4. 承認条件

特になし

5. 包装

500g

6. 同一成分・同効薬

アコニンサン錠

ウチダの修治ブシM

ウチダの附子

ウチダの炮附子

オースギ加工ブシ末

加工ブシ末（三和生薬）

小太郎漢方の炮附子末

トチモトのホウブシ

本草加工ブシ末（調剤用）

マツウラの修治附子（調剤用）

マツウラの修治附子末（調剤用）

7. 国際誕生年月日

不明

8. 製造・輸入承認年月日及び承認番号

平成18年10月11日

21800AMX10864

9. 薬価基準収載年月日
平成19年7月6日
10. 効能・効果追加、用法・用量変更追加等の年月日及びその内容
該当しない
11. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容
該当しない
12. 再審査期間
該当しない
13. 長期投与の可否
薬剤投与期間の制限を受けない
14. 厚生労働省薬価基準収載医薬品コード
5900004A1053
15. 保険給付上の注意
特になし

XI. 文献

1. 引用文献

- 1) 日本医師会編. 漢方治療のABC. 医学書院, 1992, p.30.
- 2) 菊谷豊彦. 日本薬剤師会雑誌. 1982, **34**(8), p.727.
- 3) 中山医学院編. 漢薬の臨床応用. 医歯薬出版, 1979, p.187.
- 4) 原田正敏. ファルマシアレビュー. 1983,(12), p.35.
- 5) 日本医師会編. 漢方治療のABC. 医学書院, 1992, p.14.
- 6) 松田邦夫・他. 臨床医のための漢方[基礎編]. カレントセラピー, 1989, p.29.
- 7) 菊谷豊彦. 大阪医薬品協会会報. 1984,(6), p.1.
- 8) 張 明澄. 中国医学薬物事典. エンタプライズ, 1990, p.154.
- 9) 松田邦夫・他. 臨床医のための漢方[基礎編]. カレントセラピー, 1989, p.281.
- 10) 村田高明. 現代東洋医学. 1992, **13**(1), p.11.
- 11) 村田高明. 日本医事新報. 1990,(3461), p.134.
- 12) 赤瀬朋秀・他. 月刊薬事. 1994, **36**(7), p.175.
- 13) 吉元昭治. 産婦人科の世界. 1990, **42**(増), p.25.
- 14) 勝田正泰. 日本東洋医学会誌. 1981, **31**(4), p.239.
- 15) 山中丈夫. 北海道歯科医師会誌. 1992, **47**, p.23.
- 16) 青山廉平. 現代東洋医学. 1994, **15**(1), p.132.
- 17) 株式会社ツムラ社内資料
- 18) 株式会社ツムラ社内資料
- 19) 株式会社ツムラ社内資料

2. その他の参考文献

特になし

XII. 参考資料

主な外国での発売状況

2014年4月現在、外国では発売されていない。

XIII. 備考